

いっしょに
考えましょう!

【いそべとしえ 討議資料】

「今」を理解し、将来を想像するために必須なのが『豊かな知恵』。
データを提示して事実を可視化し、10年後、20年後の光市のまちを具体的に描きます。

どうなっているの?

これからどうなるの?

日本と光市の人口動態

光市民代表
ひかりさん



いそべさん、そもそも人口動態ってどういうことですか?

人口動態とは、ある一定の期間における人口の変動のことで、統計に基づいて将来の人口構造の推移を推計することもでき、『よほどのことがない限り確実な未来(P.Fドラッカー)』とされています。



いそべ
としえ

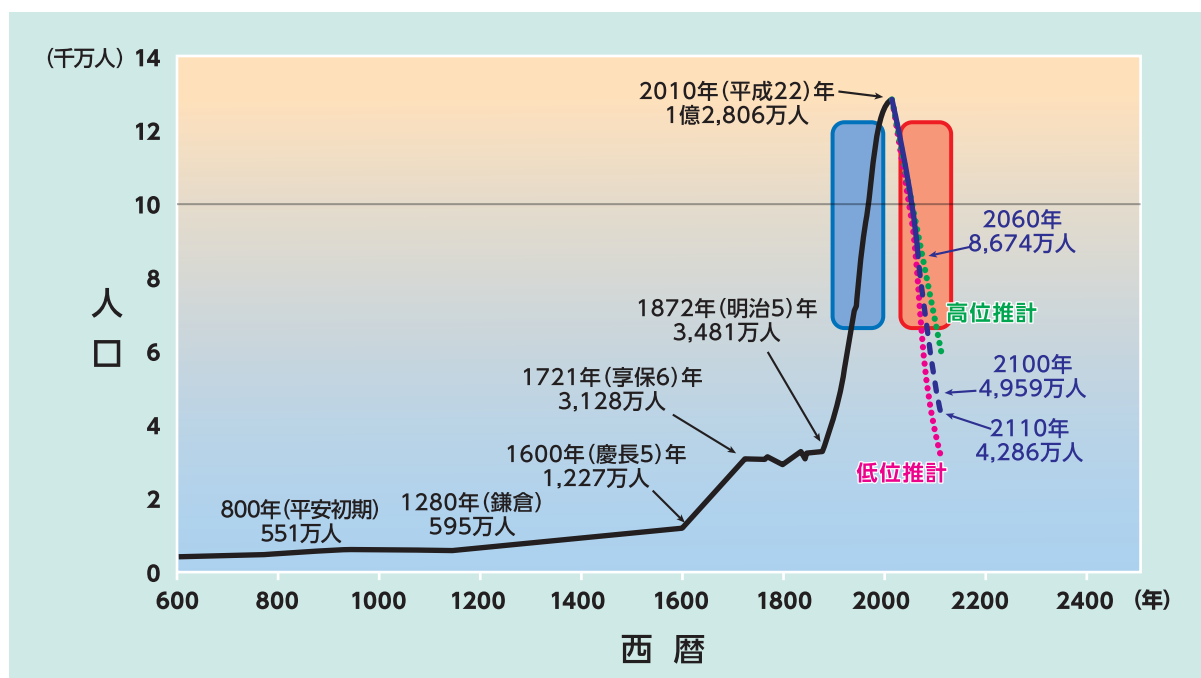


まちの将来を考える上で、人口動態を正しく理解することが重要になるのですね!

そのとおり! 日本の人口は、ご存知の通り、明治・大正・昭和と加速度的に増加してきましたが、平成22年(2010年)をピークに今後は加速度的に減少することが予想されています。



日本人口の歴史的推移 参考資料①



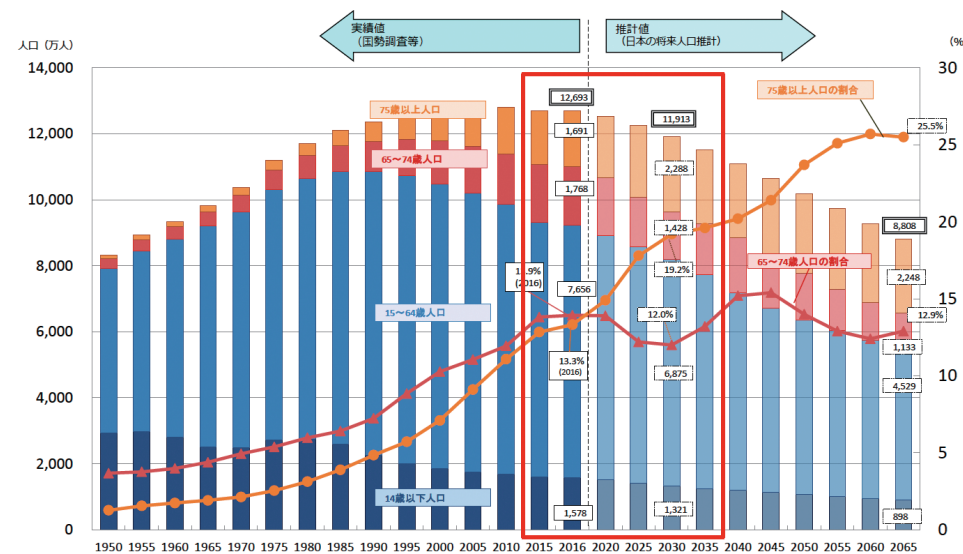
2010年のピークをベースに前後50～60年を確認すると、2010年以降、単に人口が減少しているだけでなく、75歳以上の割合が一気に増えるのが見え、年代別のバランスが全く違っています。**2010年までと同じ政策を進めていたのでは、今後の環境に合った政策にならないことは必至です。**



総人口の推移

参考資料②

今後、日本の総人口が減少に転じていくなか、高齢者（特に75歳以上の高齢者）の占める割合は増加していくことが想定される。

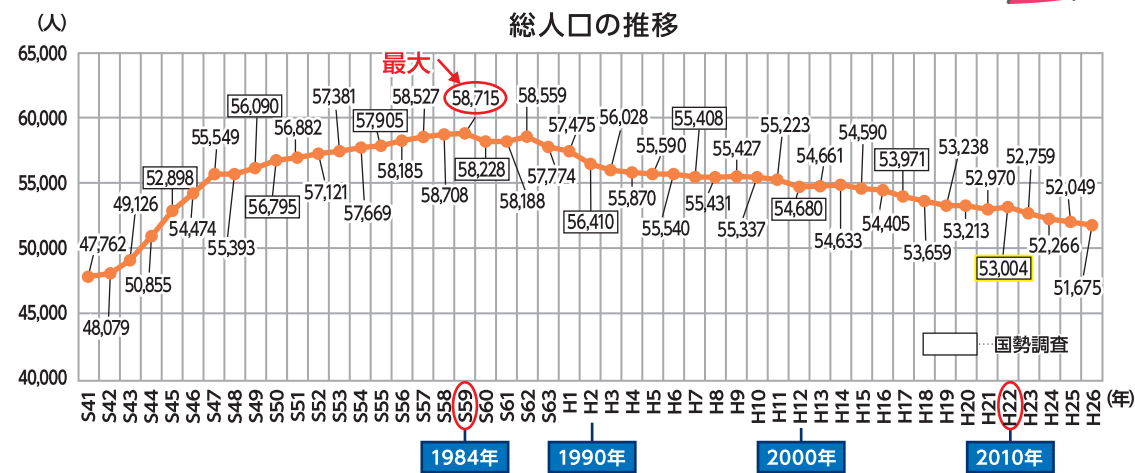


そして光市の人口は、昭和59年（1984年）がピークでその後は確実に減少し、ピークの年を比べると光市は全国平均（2010年）に比べて**26年も早く**起こっています。



光市人口の変化

① 参考資料③

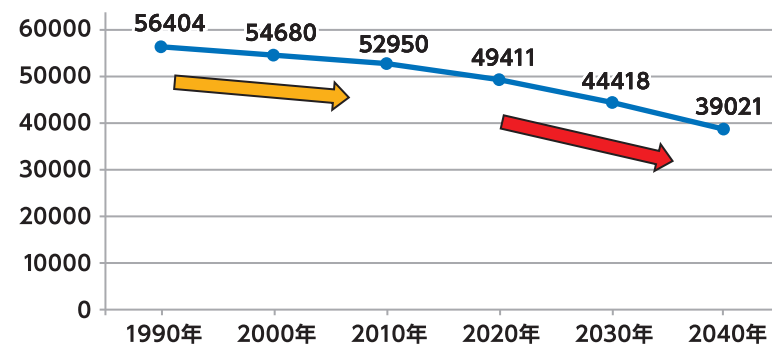


2020年以降の推移を見ると、減少の幅は大きく、全国平均に比べて加速度的に減少する事が予想されていますね。



光市人口の変化②

参考資料④

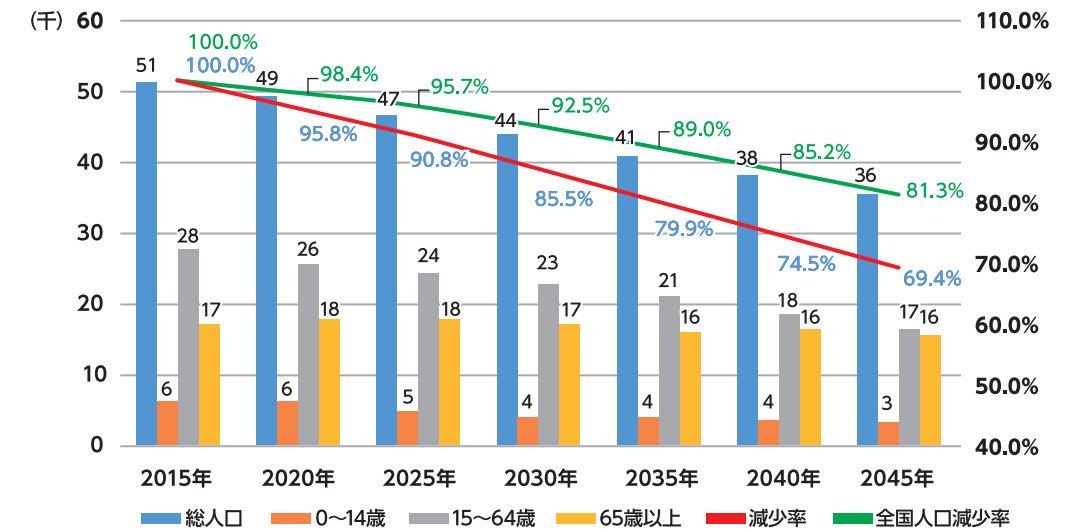


さらに光市の今後は、0～14歳、15～64歳、65歳以上の全ての階層で減少していく事が予想されています。一般的に言われている「少子高齢化」の意味合いとは違うのではないのでしょうか？



光市階層別人口&減少率

参考資料⑤

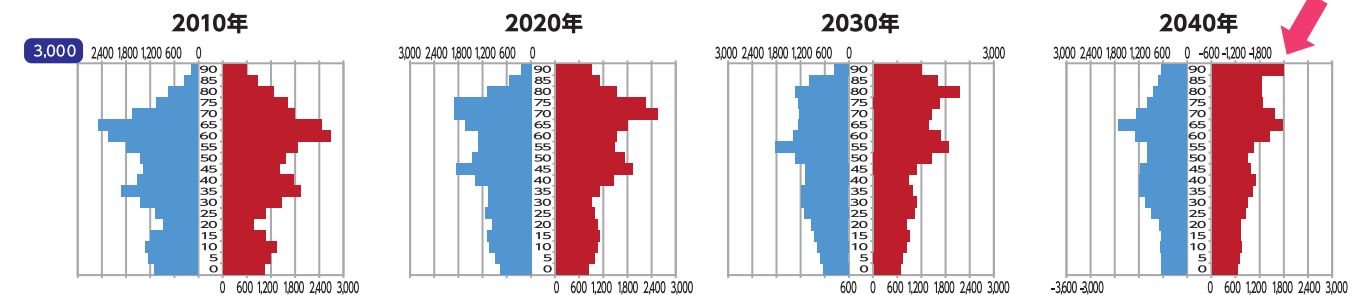


加えて、年齢階級別の変化を見ると、全体が減少（グラフがスリムになって来る）の中、高齢の女性が増える事（2040年の矢印）が見えます。



光市 年齢階級別人口変化

参考資料⑥

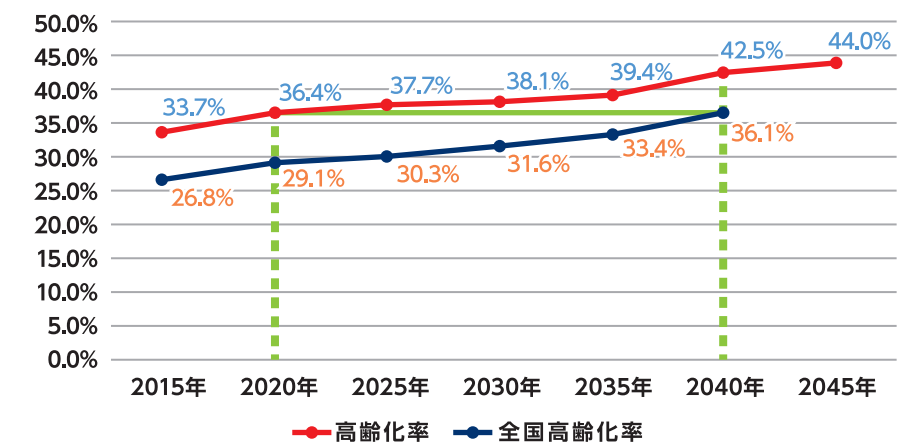


高齢化を全国と比べてみると、光市は全国平均の**20年先**の状態を推移していますね。



光市 高齢化率

参考資料⑦



そうです。ひかりさんはこれらの人口動態の変化から何が見えてきますか？



光市は全国平均に比べピークで26年、高齢化で20年先を行っているのがはっきりと見えます。

そうです！ そのことから、光市が今、国が示している少子高齢化の対応に沿ってすべき事を考えていたのでは現実と大きなGAPが生じることがわかりますね。



光市は、国よりも先を見た施策を行わなければならないということですね。

人口減少に対する施策は、出生の問題・働き手確保の問題等があげられ、まちの活性化にも影響すると考えられます。
高齢化に関しては、健康寿命の延伸の視点から介護の問題（施設、自宅での老々、独居）・高齢者自身の活動性の問題等があげられ、まちの在り方に影響すると考えます。



これからも『みんなが笑顔で元気に過ごせるまち 光』にしていきたいです！

もちろんです。人口動態からだけでも考えなければならないことがあります。光市がおかれている環境を正しく理解して、今も大切ですが、将来を見据えて必要な事をしっかりと実行することが求められているのです。

市民のみなさんが、安心して元気に暮らせるまちづくりを目指します！

